

あたらしくはいった本 (令和4年10月 貸出開始資料から)

- 小説 水底のスピカ(乾ルカ/著) 天下大乱(伊東潤/著) 麻阿と豪(諸田玲子/著) はぐれんぼう(青山七恵/著) 濱地健三郎の呪える事件簿(有栖川有栖/著) 首切り島の一夜(歌野晶午/著) リバー(奥田英朗/著) 夏日狂想(窪美澄/著) シャドウワーク(佐野広実/著) しろがねの葉(千早茜/著) 仕掛島(東川篤哉/著) イコトラベリング1948-(角野栄子/著) このやさしき大地(ウィリアム・ケント・クルーガー/著) 真夜中の密室(ジェフリー・ディーヴァー/著)
- 随筆・詩などの文学 湊かなえのことば結び(湊かなえ/著) 宗祇筑紫道紀(米村純子/編) 編めば編むほどわたしはわたしになっていった(三國万里子/著) 1と0と加藤シゲアキ(加藤シゲアキ/文・編)
- その他の本 55歳からの新しい食卓(上田淳子/著) 生き物たちよ、なんでそうなった!?(五十嵐杏南/著) あなたのまわりの「高齢さん」の本(佐藤眞一/著) 茶花の見分けかた、育てかた(塩見亮一/著) 歴史をこじらせた女たち(篠綾子/著)

みんなの としょかん



市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>



『水底のスピカ』
乾ルカ
中央公論新社



『このやさしき大地』
ウィリアム・ケント・クルーガー
早川書房



『湊かなえのことば結び』
湊かなえ
角川春樹事務所

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

としょかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
12	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

古代大宰府の軍事的機能 防人とその役割

私は古代大宰府の歴史を、対外的機能・軍事的機能・管内支配機能という3つの役割から考える試みが続けています。ここでは、そのうちの軍事的機能について少しみてみましょう。

九州においては、白村江敗戦翌年の天智天皇3(664)年、吉岐・対馬・筑紫国などに「防」(防人の配備地)と烽(のろし)を置き、また筑紫に水城を築いたことが、『日本書紀』という書物にみえています。さらにその翌年には大野城・椽城(基肆城)を築いたこともみえます。私は、こうした白村江敗戦後の措置が、後の大宰府における軍事的機能の淵源になったのではないかと考えています。もちろんそれは以前から大陸や半島に最も近い位置にあった筑紫が担ってきた軍事上の役割を背景としたものだったでしょう。



～公文書館だより⑩～

の信頼を置くことはできません。こうしたことを踏まえて、先の天智天皇3年の記録が防人制の初見であり、それが白村江戦の直後であることから、敗戦後の防衛体制の一環とみるのが、現在の一般的な理解といえるでしょう。

一方で立教大学名誉教授・野田嶺志さんは、日本古代軍制史を検討する中で、防人制の成立を統天天皇3(689)年にみえる防人の記録に求めました。また防人の役割については、白村江敗戦に伴う対外的な防衛というよりもむしろ、筑紫地域に律令制の基盤を形成することにより、いわば国内的な要因によって編成されたものとみえています。この野田さんの見解は、40年以上も前に示されたものですが、近年の研究の中でもしばしばふれられています。この見解と、先述した一般的な理解とをいかに関連づけて解釈できるかが大きな課題として残されていると思います。防人制が九州固有の軍制であることも踏まえて、今一度検証することが必要だと考えています。

【バックナンバーはこちら】

ページID7241

大宰府市公文書館

重松 敏彦